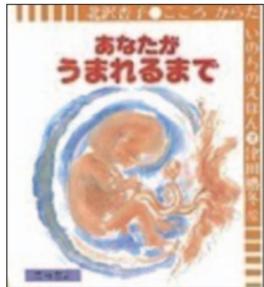


赤ちゃんはどこから来るの？

Books

情報誌編集委員が選んだ
おすすめの図書～台東区立図書館より～



『あなたが生まれるまで』
北沢杏子 作
津田櫓冬 絵
岩崎書店



『ふたりのはなし』
山本直英 さく
和歌山静子 え
童心社



『親と子で語る性のはなし』
R. H. ハリス 文
おきたげん 訳
M. エムバリー 絵
ほるぷ出版

- ・『正しい保健体育』みうらじゅん 著 イーストプレス
- ・『わたしのはなし』山本直英／和歌山静子 さく 童心社
- ・『おちんちんのえほん』
やまもとのおひで・ぶん さとうまきこ・え ポプラ社
- ・『メグさんの男の子のからだところQ&A』
メグ・ヒックリング 著 三輪妙子 訳 築地書館
- ・『男の子が大人になるとき』
岩室紳也 監修 中村光宏 絵 少年写真新聞社

からの方が、より詳しく理解をすることができると思います。お子さんが産まれた時、みんなが誕生を喜んでことや、小さくても愛おしかった、などということを教えてあげると、子供は『自分は大事にされているんだ』と感じることが出来ます。すると、自分や周りの人や友達を思いやり、大事にできる心が育まれていきます」

幼い頃からの積み重ねと子供との関わりが大切

なんでもオープンに話をする必要はありませんが、入浴を一緒にする、新聞やテレビの話題から話をしてみるな

ど、生活の中で、自然に学ぶことができる」と嶋村さんは言います。

「幼い頃からの積み重ねが大切で、そのつど、子供の『なぜ』に向き合い、子供が理解できる範囲で話をしてあげれば、子供はきちんと受け止めることができます。逆に閉鎖的になって、子供の興味の芽を、『まだ早いから』といって摘みとってしまうと、子供の中で、性的なことは、聞いてはいけないこと、けがらわしいこと、などの負のイメージがついてしまい、間違った生理観である月経不浄視や自己卑下の気持ちにつながることもあります。また、人を好きになつたりすることも、家では話してはいけないことと理解し

てしまつ可能性があります。性的な知識はその子供の疑問に合わせて話してあげて、むしろ、人を愛することは素晴らしいこと、人を愛することはどういつことを感じ、学んでいくことができる家庭の雰囲気大切です。」

嶋村さんにお話を聞くにあたり、私達は「いつから子供に教えた方がいいのか?」「具体的にどのように子供の疑問に答えればいいのか?」をお聞きしようと考えていました。

しかし、嶋村さんのお話を聞いているうちに、その答えは「子供のタイミング」や「家庭の中」にあることがわかりました。



どうする? 家庭での性教育

子供からの突然の質問に思わず考え込んでしまったり、説明に困ってしまうということはありませんか? そんな時はどうすればいいのでしょうか。家庭での性教育について、助産師の嶋村さんにお話をうかがってきました。

どうして聞いてきたのかを
その時に適した言葉で

子供から突然、「赤ちゃんはどこから来るの?」という質問をされると、どのように説明するのが正解なのか、親としては悩みどころだと思えます。

「子供は、日々たくさんさんの刺激の中でいろいろな『なぜ』と共存しています。そしてなんとなく知りたくて『どうして?』と、無邪気に聞いてくるものです。ですから、『性教育をしなさい』と身構えず、肩の力を抜いて、お子さんがわかる言葉で、その子が今、理解できる範囲で、『なぜ』に向き合ってあげることがとても大切ですよ」と嶋村さん。

子供と話をするにあたっては、どうしてそのことを知りたくなったのか、その「きっかけ」を子供から聞いてみるよとのだそうです。幼稚園で友達から何かを聞いたとか、友達の家に赤ちゃんが産まれたのを知ったとか、きつと何かしらきっかけがあるはずですよ。子供が興味を持った背景を知ること、子供にどのよう話をすればいいのかヒントになるのだそうです。

オリジナルのストーリーで伝えると理解が深まる

では、どのように話をすればいいのでしょうか。ゆくゆくは学校で教えてくれ

るから、家庭内でわざわざ話をする必要はないと思うかもしれませんが、学校には学校の教え方があります。家庭では、学校とは違い、その子に合わせた話ができるので、それぞれの家庭の教え方で、お子さんと話をしてみてくださいと嶋村さんは言います。

「お子さんが、どうしてそのことを疑問に思ったのか、その『きっかけ』を思い出してみてください。もし友達の家に赤ちゃんが産まれたことがきっかけになつていたら『あなたが産まれた時はね』と、お子さんが産まれた時のことに置き換えて話をしてみてもいいと思います。自分自身のことを話してあげること、より理解が深まると思います」

たとえば、子供が生まれた時の写真を一緒に見ながら、「初めてあなたを見た時、とてもかわいかった」というお母さんの気持ちや「お父さんは、あなたを見て、うれしすぎて泣いていったんだよ」など、お父さんのその時の様子や周りの方々の反応などを話してみるのもいいのだそう。

「さらにさかのぼって、お父さんとお母さんはどのようにして出会ったのか、そして『お父さんとお母さんが愛し合ってあなたが産まれてきたんだよ』と話してあげてください。『大好き』や『愛し合って』などの言葉は、子供が理解できるわかりやすい言葉



嶋村克子さん

公益社団法人日本助産師会 地域貢献室 助産師。大学病院等で助産師として約4年勤務し、第一子出産後退職し専業主婦となる。平成3年第二子が小学校へ上がると、母子訪問指導員となり地域の助産師活動を始める。



見つけて、今の『あなた』が生まれたオリジナルのストーリーを話してあげられるのです」

小さいうちは、お父さんとお母さん、おじいちゃんとおばあちゃんなどといった家族のつながりや、命のつながりを中心にした話をしながら、命のつながりがしやすくと嶋村さんは言います。

『受精』については、小学校の授業の中でも学習しますし、それは成長して